

平成26年度事業報告

I 基本方針（基本理念の実現に向けて）

第3期「ふくしま県民の森の指定管理者」の初年度にあたる平成26年度は、指定管理者となっている「ふくしま県民の森」の施設等を活用しながら、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興支援を果たすことを第一とし、各種事業に取り組んだ。

「福島県外から多くの利用者を森に誘致すること」を復興支援のひとつの手段として捉え、夏から秋にかけ4件の全国規模の大会を誘致し開催した。

II 指定管理者としての「ふくしま県民の森」の管理運営

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響については、福島県と連携を図りながら、利用者の信頼を得るため、施設内の空間線量の定期的な測定と正確な情報提供を行った。

県内外の様々な組織、機関等と連携し、「ふくしま県民の森」の利用者増を図るための事業を行った。

「ふくしま県民の森」利用者に対し、満足度を高めるような施設整備を行うとともに、森林での楽しみ方、森林の学び方などをサポートするプログラムや情報の提供を行った。

1 県委託料による施設・緑地管理

(1) 施設の高規格化、老朽化等への対応

ビジターセンター（温水配管修繕、灯油ボイラー修繕、玄関自動ドア修繕、温泉脱衣所床修繕、利用案内用サイン新設、天井部漏水修繕、消防設備修繕）

コテージ（木製テラス修繕 2棟）

森林学習区域（減圧槽バルブ修繕）

(2) 利用者の安全確保への対応

大型野生動物（ツキノワグマ、イノシシ）対策のための環境調査、森林下層木の伐採等

(3) 木質チップボイラー設置への対応

平成26年末に福島県より引き渡しを受けた木質チップボイラー（新設）の管理運営

2 オートキャンプ場利用料金による施設管理

(1) 施設の高規格化、老朽化等への対応

ビジターセンター（温泉脱衣所エアコン設置、浴室内大型ガラス窓交換、ロビー・カフェガラス窓コーティング、浴室内ドア修繕、カフェテーブル塗装修繕）

3 フォレスト・エコ・ライフ推進の事業

[平成25・26年度の目標値は財団中長期計画（平成25年8月）による]

(1) 森林学習施設区域の運営

震災直後に比べ、本区域への学校等による森林学習の利用は増加したが、震災時の地震の影響から飲料水等の取水量が減少し、復旧していないため、ユースキャンプ場の炊事棟や野外トイレの利用制限を行った。

このため、震災前には多くの利用があったユースキャンプ場だが、原発事故に起因する野外活動の制約や水不足による施設利用の制限により、利用者は大幅な減少をみた。しかし、県民の森の空間線量が明らかに低下したことや、学校教育のなかでの野外活動休止の見直しがなされた結果、県内の学校利用は増加傾向にある。

森林学習施設区域全体の利用者 (単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 22 年度	震災前の年	174,400	158,433	90.8%
平成 25 年度	前年度	9,500	12,303	129.5%
平成 26 年度	当年度	15,800	13,732	86.9%

森林館の利用者 (単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 22 年度	震災前の年	12,180	12,792	105.0%
平成 25 年度	前年度	2,500	3,313	132.5%
平成 26 年度	当年度	3,400	3,565	104.9%

学校団体利用者数 (単位：人)

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成 22 年度	震災前の年	7,780	10,353	133.1%
平成 25 年度	前年度	3,300	5,108	154.8%
平成 26 年度	当年度	3,700	5,384	145.5%

(2) オートキャンプ場の運営

原発事故の影響は平成26年度も継続しているが、宿泊利用、日帰り利用ともに、トップシーズンであるゴールデンウィーク期間中と夏休み期間中の利用は、震災前の平成22年度比の約75%まで回復させることができた。その他の月も、徐々に震災直前の状態に戻りつつある。

年間の施設利用者数では、震災直前の平成22年度比の約94%となり、利用者の放射

能に関する理解が進み、野外活動の重要性が高まったこと、さらには県内の活動に落ち着きが出てきたことや、団体割引や学校教育利用割引などによる利用者増への取り組みの結果と思われる。

日帰り温泉利用については、健康面・精神面での温泉の効用などにより、原発事故以前の利用実績を超える実績を確保できた。

財団主催のイベントプログラムへの参加者は、トップシーズンが天候不順に見舞われたことなどから、イベントへの参加率が下がり、前年（平成25年度）比72%となった。

風評被害にかかる営業損失については、東京電力より損害賠償金として受け入れた。

オートキャンプ場の利用収入（実績）

オートキャンプ場利用収入については、前年度比109%となり、施設利用が着実に増加していることの証となった。また震災直前の平成22年度比では税込みで99.5%、税抜きで96.7%となり、ほぼ震災前の状況に近づいたと思われる。

（単位：千円 日帰り温泉収入含む 消費税込み）

年 度	区 分	オートキャンプ場利用収入
平成22年度	震災前の年	71,029
平成25年度	前年度	65,104
平成26年度	当年度	70,683

オートキャンプ場の利用者（大人+小人）

（単位：人）

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率（実績／目標値）
平成22年度	震災前の年	32,650	29,241	89.6%
平成25年度	前年度	23,300	25,709	110.3%
平成26年度	当年度	24,800	26,199	105.6%

温泉施設の利用者

（単位：人）

年 度	区 分	目標値	実績	達成率（実績／目標値）
平成22年度	震災前の年	14,330	11,683	81.5%
平成25年度	前年度	13,400	13,598	101.5%
平成26年度	当年度	13,500	13,424	99.4%

イベント・プログラムの実施

年 度	区 分	実 績 (人)	実施回数 (回)
平成 22 年度	震災前の年	6,643	289
平成 25 年度	前年度	4,405	178
平成 26 年度	当年度	3,161	242

Ⅲ 受託事業の実施

1 もりの案内人養成講座運營業務

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）
- (2) 実施期間 平成26年5月23日～平成27年3月13日
- (3) 実施内容 福島県が募集し、選定した受講生22名（新規18名＋継続4名）を対象に、5期15日間の講座を開催、運営した。

第1期：平成26年6月13日～15日

第2期：平成26年7月4日～6日

第3期：平成26年9月26日～28日

第4期：平成26年11月14日～16日

第5期：平成27年1月16日～18日

財団スタッフは、講座運営のほか5教科の講師を勤めた。

2 森林ボランティアサポートセンター開設業務

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）
- (2) 実施期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日
- (3) 実施内容 学校や幼稚園などの教育機関や子ども会などの団体からの依頼を受け、NPO法人福島県もりの案内人の会などへの講師派遣要請を行った。昨年度に比べ森林内での活動を希望する事例が増加した。

企業や森林ボランティア団体などの活動状況取材し、森林づくり情報誌（森ボラ新聞）を発行した。

ホームページを運用し、情報の提供を行った。

電話、来訪者、FAX、メールによる各種相談対応や森林ボランティア活動に必要なとされる機材（ヘルメットなど）の貸出を行った。

それぞれの実績は下表のとおりである。

年 度	区 分	ホームページ 閲 覧 件 数	森林整備道具 貸 出 件 数	指 導 者 要 請 依 頼 件 数
平成 22 年度	震災前の年	45,517	20	71
平成 25 年度	前年度	77,879	11	75
平成 26 年度	当年度	77,447	12	72

3 鳥獣保護センター管理受託事業

- (1) 委託者 福島県（生活環境部自然保護課）
- (2) 実施期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日
- (3) 実施内容 野生鳥獣傷病鳥獣の救護活動実績

(単位：頭・羽)

年 度	当該年度末 飼 育 数	当該年度収容数	当 該 年 度 野 生 復 帰 数	当該年度死亡数
平成 22 年度	102	270	83	196
平成 25 年度	69	166	52	133
平成 26 年度	64	169	50	124

4 福島県の森林文化公開体験事業

- (1) 委託者 福島県（農林水産部森林計画課）
- (2) 実施期間 平成26年7月17日～平成26年12月26日
- (3) 実施内容 福島県浜通り地域（今回は南相馬市周辺）に存在する森林文化を、フォレストパークあだたらビジターセンター内で展示と体験プログラムを実施した。

展 示

期 間 平成26年8月14日～31日

テ ー マ

福島県浜通り地域の森林と人とのつながり「イグネに残る森林のくらしの記憶」

体験プログラム

① プログラム名：夏の体験活動

期 日 平成26年8月16日～22日

テ ー マ 浜通り里山の遊び ツバキの実を使った工作

参加者数 78名

② プログラム名：夏の体験活動

期 日 平成26年8月21日

テ ー マ 浜通りの食文化体験 「べんけい」作りとイノハナご飯

参加者数 28名

③ プログラム名：秋の体験活動

期 日 平成26年11月16日

テーマ イグネについての講演と現地視察

参加者数 16名

5 森林ボランティアリーダー育成事業

(1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）

(2) 実施期間 平成26年9月1日～12月4日

(3) 実施内容 森林整備に関する知識と技術・森林整備の安全確保に関する知識を備えた森林整備ボランティアのリーダーを養成する目的の講座。福島県が募集した参加者8名を対象。

救急救命法の講習（11月4日 フォレストパークあだたら）

林業機械の講習（チェーンソー：10/1～10/2、刈り払い機：10/31 福島県林業研究センター）

森林づくり講習会（11月5日～6日 フォレストパークあだたら）

6 福島県緊急雇用創出事業

(1) 委託者 福島県（農林水産部森林保全課）

「ふくしま県民の森活動支援業務」として受託

(2) 実施期間 平成26年5月23日～12月26日

(3) 実施内容 事業期間中、新規に2人を雇用し、ふくしま県民の森の業務区域内の放射線を測定し、県民等に対してより詳細な放射線量や安心安全に関する情報の提供などを行った。

調査地点

オートキャンプ場 20ポイント（毎週）、140ポイント（6月）

オートキャンプ場林内 37ポイント（7月、9月、11月）

森林学習区域 120ポイント（6月、9月、11月）

7 企業の社会貢献事業

(1) 委託者 イオングループ [イオンリテール（株）、マックスバリュ南東北（株）、イオンスーパーセンター（株）]

(2) 実施期間 平成26年7月10日～12月10日

(3) 実施内容 事業期間中、ふくしま県民の森の敷地内において、森林活動が行いやすくなるよう、林内の下草刈り、除伐等を行った。

IV 自主事業の実施

1 ふくしま復興支援事業

(1) 全国規模の大会などの誘致と受け入れ

- ① 事業名：コウモリフェスティバル2014 in ふくしま
実施日：平成26年8月23日～24日
参加者：60名
主催：コウモリの会
実施場所：ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら
- ② 事業名：第44回全日本オートキャンプ大会<ジャパンキャンピングラリー2014>
実施日：平成26年9月13日～15日
参加者：101名
主催：一般社団法人日本オートキャンプ協会、
第44回全日本オートキャンプ大会実行委員会
- ③ 事業名：第68回全国レクリエーション大会2014 福島 特別協賛行事 キャンプ
実施日：平成26年9月19日～20日
参加者：63名
主催：公益財団法人日本レクリエーション協会
NPO 法人福島県レクリエーション協会
福島県 福島県教育委員会 開催自治体 開催自治体教育委員会
- ④ 事業名：CONE 全国フォーラム<自然体験の底力 交流フォーラム in 福島>
実施日：平成26年11月7日～9日
参加者：66名
主催：特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会

(2) 平成26年度ふくしま復興支援割引

年間を通じたフォレストパークあだたらオートキャンプ場利用者に対する財団独自の割引を行った。

- ・団体割引（30%割引）、学校教育利用割引（50%割引）

(3) 仮設住宅避難者への温泉無料提供

大玉村にある仮設住宅や借り上げ住宅に居住する避難者を対象とした、フォレストパークあだたら温泉の提供。毎月1回（8・1月を除く）実施。年間利用者数：120名。

(4) 復興支援事業・イベントなどの開催、共催

- ① 大玉村社会福祉協議会との共催事業
カメラ教室の開催：平成26年5月30日、11月13日（ふくしま県民の森）

灯明点灯式の開催：平成26年8月11日（ビジターセンター ロビー）

(5) ふくしまっ子支援事業 受け入れ（7月～1月、22件、692名利用）

(6) キッズスペース開設、提供（ビジターセンター レクチャーホール 通年）

(7) 子ども支援活動等の受け入れ

① 子どもの外遊び支援事業（NPO法人子どもの森ネットワーク）

実施期間等 平成26年12月～平成27年2月、5件、

参加者 186名

② 浪江町津島地区育成会（浪江町立津島小中学校）

実施期間 平成26年7月19日～20日

参加者 61名（大人28名、子ども33名）

③ うつくしまふくしま福島未来支援センター（大熊町の子供達支援活動）

実施期間等 平成26年7月20日～21日

参加者 108名（大人61名 子ども47名）

平成26年8月18日～19日

参加者 116名（大人62名 子ども54名）

2 環境教育事業

(1) 災害対応キャンプ事業

① 事業名：災害対応キャンププログラム 大人対象事業

実施日：平成26年6月4日

参加者：11名

主催：NPO法人福島学グローバルネットワーク

共催：（公財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

協力：福島県キャンプ協会

実施場所：ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

② 事業名：災害対応キャンププログラム 中学生対象事業

実施日：平成26年12月13日～14日

参加者：24名

主催：NPO法人福島学グローバルネットワーク

共催：（公財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

協力：福島県キャンプ協会

実施場所：ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

③ 事業名：大玉村「冒険！まなび隊」

実施日：平成26年6月28日

参加者：27名

主催：大玉村

共催：（公財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

協力：福島県キャンプ協会

実施場所：ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

④ 事業名：県北地方防災訓練

実施日：平成26年9月27日

主催：福島県 県北地方振興局

協力：（公財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

実施場所：大玉村体育館他

(2) あだたら生物クラブ

ア 実施日：平成26年6月28日 参加者：14名

平成26年10月18日 参加者：15名

イ 主催：NPOわかば自然楽校、福島市小鳥の森、

（公財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

ウ 実施場所：ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら

(3) 森林保全推進事業

① うつくしま21森林づくりネットワーク 事務局の引き受け

ネットワーク総会開催 平成26年4月21日(会場：フォレストパークあだたら)

第1回検討会開催 平成26年7月16日(会場：フォレストパークあだたら)

森林づくり活動発表交流会

平成26年11月15日～16日(会場：響きの森 須賀川市)

② ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会 事務局の引き受け

総会開催 平成26年4月8日(会場：フォレストパークあだたら)

臨時総会開催 平成26年8月29日(会場：フォレストパークあだたら)

臨時総会開催 平成27年3月25日(会場：フォレストパークあだたら)

③ 森林・林業関連委員会等への出席

全国植樹祭第3回準備委員会 平成26年5月22日(福島市内)

福島県の森林文化に係る調査事業 業務検討会 平成27年3月2日(福島市内)

(4) 植樹緑化事業

① 植桜祭 醍醐の桜 入魂式

実施日：平成26年4月20日(日)

主催：（公社）ゴルフ緑化促進会、（公社）福島県森林・林業・緑化協会、

（公財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

実施場所：ふくしま県民の森 第1広場

内 容：京都・醍醐寺の座主による魂入れ 三春滝桜苗木、6種類の桜160本サクラを植樹

参加者数：50名

② 桜植樹会

実施日：平成26年11月18日(火)

主 催：(公社)ゴルフ緑化促進会、(公社)福島県森林・林業・緑化協会、
(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

実施場所：ふくしま県民の森 第2広場

内 容：6種類の桜160本サクラを第2広場および県道脇の植栽帯に植樹

参加者：(公社)ゴルフ緑化促進会、福島県、(公社)福島県森林・林業・緑化協会、
(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

(5) 講師派遣事業

① 奥会津大学基調講演

実施日：平成26年6月8日

主 催：奥会津大学

実施場所：昭和村公民館(大沼郡昭和村)

発表者：事務局長 弦間一郎

(6) 広報活動

テレビ、ラジオ、情報誌、ネットなどへの取材に対応するとともに情報を掲載掲載し、当財団ホームページにおいて、あだたら日記をはじめとする情報提供を行った。

3 調査・研究事業

(1) 自然環境基礎調査事業 ふくしま生きもの調査発表会

実施日：平成26年12月20日

主 催：(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

実施場所：フォレストパークあだたら レクチャーホール

内 容：福島大学共生システム理工学類研究生他による研究成果発表会)

参加者数：38名

(2) 第6回環境再生活動事例発表会

実施日：平成26年12月7日

主 催：NPO法人福島環境カウンセラー協会、ふくしま復興支援学生ネットワーク、
第6回環境再生活動事例発表会【福島】実行委員会

実施場所：フォレストパークあだたら レクチャーホール

参加者数：50名（うち学生30名）

4 FEL制度事業

原発事故の影響により震災前に比べると会員の更新、新規登録ともに減少しているが、平成24年度より増加傾向にあり、昨年度比104%となっている。

5 物品販売・貸付・カフェ事業

オートキャンプ場利用者の増加や福島県内の状況が好転しつつあるが、平成26年4月からの消費税率アップの影響も受けている。震災前の平成22年度と比較し約93%（消費税抜き比較）、平成25年度と比較し約104%となった。

事業収入（消費税を含む）

（単位：千円）

年 度	区 分	ショップ売上 (物品販売)	カフェ売上	物品貸付
平成22年度	震災前の年	11,121	2,269	2,098
平成25年度	前年度	11,576	1,957	2,180
平成26年度	当年度	10,904	2,473	2,225

6 地域振興と社会貢献事業

(1) 地域振興

① 授産施設支援

ビジターセンター ショップ等における県内授産施設製品の販売

② 地場製品の販売促進

農産物を中心とした地元製品の販売、地元食材等の紹介、活用

③ 教育旅行推進委員会への参加

県外からの教育旅行誘致を目的とした（公財）福島県観光交流物産協会主催の事業

(2) 社会貢献（自主事業としての復興支援を除く）

① 教員研修受入

大玉村立玉井幼稚園（教諭1名 平成26年8月5日）

② 研究生受入

国立大学法人岩手大学（農学部 大学院生1名、大学生1名

平成26年8月17日～24日）